



news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
[URL] <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2013年2月1日

報道関係各位

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

**北海道初の「ピークシフト自販機」
さっぽろ雪まつり会場に登場！！
夏の日中消費電力 95%削減、冬の電力抑制にも貢献**

北海道コカ・コーラボトリング株式会社(本社:札幌市清田区 社長:矢吹健次)は、このたび、夏の日中に冷却用の電力を使わず消費電力を95%削減しながら16時間もの間冷たい製品を提供する「ピークシフト自販機」を、2013年に1,500台設置することを決定し、北海道での第1号機をさっぽろ雪まつり大通会場に設置しました。

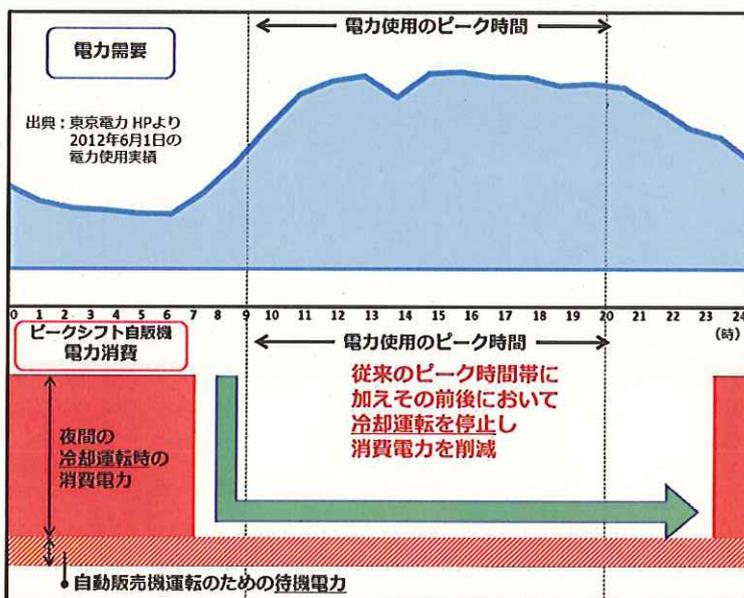
「ピークシフト自販機」は革新的な技術、ピークシフトテクノロジーの採用により、冬季の製品の加温に使用するヒーターの消費電力が従来機と比べて20%^{*}少なくなり、冷却に使用する消費電力とあわせても、68%^{*}の消費電力を削減することができます。

当社ではこの「ピークシフト自販機」を、さっぽろ雪まつり開催期間の2月5日(火)～2月11日(月)の7日間、大通5丁目会場「環境ひろば」を中心に、つどいむ会場、地下歩行空間さっぽろ雪まつりブースなどで計18台設置し稼働いたします。

冬季の北海道の節電要求に対する、当社からの新たな提案として、この革新的な自動販売機を、是非、さっぽろ雪まつり会場で体感頂きます様お願い申し上げます。



ピークシフト自販機



電力使用のピークシフト

1. 「ピークシフト自販機」

「ピークシフト自販機」は、2012年に日本コカ・コーラ株式会社が富士電機株式会社と共同で開発した、日中冷却のための電力を使用しない、超省エネ型の自動販売機です。

コカ・コーラでは1995年から実施している、電力使用がピークとなる7月から9月までの午後1時から4時まで冷却を停止させる「ピークカット」や、2005年から進めている冷媒にフロンを使わないノンフロン自動販売機の導入など、自動販売機における環境対応にいち早く取り組んできました。東日本大震災後は、日中の電力使用の逼迫に対応するため、従来からのピークカットに加え、午前9時から午後8時まで輪番で冷却を止めてきました。出来るだけ多く冷たい製品をご提供しながら節電を行う持続的な対応として開発した「ピークシフト自販機」では、ピークシフトテクノロジーにより、冷却のための電力使用を、一般的に電力使用が「ピーク」となる日中から、比較的電力に余裕がある夜に「シフト」しています。

夜間に冷却し、日中は冷却を停止したままで最長16時間冷たい製品を販売でき、日中の消費電力を95%削減できる「ピークシフト自販機」は、冷却運転のためのコンプレッサーを長時間停止させることから運転音が発生せず、病院やオフィスのように静けさが求められるロケーションの設置にも適しています。

2. 「ピークシフトテクノロジー3つの工夫」

「ピークシフト自販機」では、以下の3つの工夫を施し、ピークシフトテクノロジーを実現させたことによって、補充した常温の製品を冷却するまでに掛かる時間が従来機より約25%も早くなり、冷たい製品をより早くご提供しやすくなっています。

1つ目の工夫は「全体冷却」、2つ目が「断熱効果向上」、3つ目が「気密性向上」です。従来の自動販売機では、消費電力抑制のため、販売状況に応じて収容製品の一部のみを冷却していたため、冷却を長時間停止すると庫内の温度が少しずつ上昇します。しかし、「ピークシフト自販機」では、比較的電力に余裕がある夜間に収容製品の全量を冷却し保冷機能を高めることで、長時間冷却を停止しても、製品の温度上昇を抑制します。また、従来のウレタン素材に替え、10倍の断熱性能を持つ真空断熱材をより多く採用することで、熱性能を高め外気温の影響を受けにくくしています。さらに、扉の気密性を高める改良を行い、冷気が逃げにくくする工夫を施しました。これらの取り組みにより、政府の節電要請に応えつつ、冷たい製品を提供することが可能になりました。

3. 冬季も消費電力削減に貢献します

この「ピークシフト自販機」が省エネに貢献するのは夏だけではありません。「ピークシフト自販機」では、1年のうちで電力消費がピークとなる夏の日中に、コールド製品冷却のための電力ゼロを達成することを目的に断熱性および気密性を高めました。その結果、冬に一部製品を加温する際も、使用するヒーターの消費電力が従来機と比べて20%も少なくなり、冷却に使用する消費電力とあわせても、68%の消費電力削減となることがわかりました。

4. ポーラーベアの採用

デザインは 2011 年以降コカ・コーラ自動販売機の標準デザインに採用している「3D VIS」をベースとし、「ピークシフト自販機」の前面および側面にはポーラーベアを採用いたしました。ポーラーベアは、1922 年にフランスの広告に登場して以来、世界中でコカ・コーラのコミュニケーションに登場してきたキャラクターです。日本でも 1993 年の初登場以来親しまれてきました。近年、地球温暖化の進行により生息数の減少が心配されているポーラーベアが、冷たい製品を想起させることに加え、この「ピークシフト自販機」が地球にも優しいことをイメージさせます。ポーラーベアが持つプラカードのメッセージは 約 12 種類 60 パターンあり、「日中の消費電力 95%削減」「よく冷えてます」などのほかに、「温暖化が進むと氷が溶けちゃうよ。」「ふむふむ。ピークをシフトしてること?」「省エネさんせい！節電さんせい！」といった、環境メッセージをわかりやすく伝える内容で展開いたします。

※2012 年度製造同型機平均値比 日本コカ・コーラ社調べ

**収容本数の 1/3 を加温する場合 日本コカ・コーラ社調べ

当社は、「～北の大地とともに～」をスローガンに、環境保全活動を通じて、持続可能で、安全・安心な社会の実現を目指しております。

これからも、次世代を担う子どもたちに、将来の地球の姿を考える場を提供することや、安全で安心な地域づくりを応援する取り組みを、地元企業として、事業活動を通して継続的に推進してまいります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
北海道コカ・コーラボトリング株式会社
広報・CSR推進部 担当:佐々木、竹中
011-888-2091

【ご参考】

自動販売機を活用した様々な社会貢献活動

(1) 地域防災力の強化を支援“防災協力自動販売機”

この自動販売機は、電光掲示板を搭載しており、パソコンからの遠隔操作により文字情報を表示することが可能です。平常時には自治体より防災情報や地域情報を配信して、地域住民の防災意識の高揚をはかるとともに、緊急時は災害情報の配信や、同様の遠隔操作により自動販売機内の飲料水の無料提供を行います。

2012年3月時点で道内全179自治体と協定を締結し、現在約1,200台の自動販売機を設置しています。昨年の震災には、当時防災協定を締結していた約150箇所の自治体のうち、太平洋沿岸部を中心とした26箇所の自治体の自動販売機50台にて、遠隔操作によるフリーベンド(無料提供:1万本)を災害当日より実施し、被災された方々に飲料水を提供させていただきました。

(2) 「道の駅」で地域情報を提供“おしらせ道ねっと”

各市町村と国土交通省北海道開発局との協働で道の駅などにおける新たな情報提供事業として、道路利用者の方々に道路情報や地域情報を配信するほか、災害発生時には自治体の判断で自動販売機内の飲料を無料提供しています。

2012年11月時点で、119台の自販機を設置しています。

(3) 安全・安心な地域づくり「防犯ほっとインフォメーション」

北海道警察、並びに地域の警察署と日頃から地域の防犯意識を高め、更なる安全・安心な地域づくりを目指した協働事業として、防犯広報や身近な生活犯罪情報、事件情報などを配信しています。2011年3月時点で全道の警察署69署と協定を締結し、現在約450台設置しています。

(4) 自動販売機を見れば住所がわかるステッカー貼付

昨今の携帯電話の普及により、事件・事故・救急・消防に関して、警察や消防への通報に携帯電話が使用されることが多くなりました。早期対応と場所確認がスムーズに行われるために、全自動販売機に住所表示ステッカーを貼付しています。この取組みは自動販売機業界全体の取組みとなっております。

(5) 地元観光地図の掲示

観光客の現在位置、観光名所が一目でわかる地図を掲示することにより、行きたい場所や地域の特色などを確認することができ、お客様の場所確認が可能です。

(6) 北海道内沿岸地域に設置している自動販売機に“海拔表示”を掲示

津波被害が想定される北海道内沿岸地域に設置している自動販売機に国土交通省と同様の海拔表示を掲示して、地域住民の方々に日頃から地域の海拔を意識していただき、津波災害に対する警戒と津波発生時の避難行動等に役立てていただくことを目的に、本年11月よりスタートしました。このたび対象となる約4700台全て自動販売機で貼付が完了しました。

海拔表示シートは縦30センチ、横42センチで、「この地盤は海拔0m」と青地に白の文字で書かれ、国土交通省が作成した全国統一のデザインを使用しています。